

全国で 135 万人、大阪府で約 8 万 7000 人と推計

～対策を講じなければ失明の恐れがある

糖尿病性網膜症の増加は必至～

糖尿病合併症の一つである糖尿病性網膜症は、成人の中途失明の原因として緑内障に迫る第 2 位を占め、今後、糖尿病有病者または糖尿病予備群の増加に伴い、増えていくことが指摘されています。

大阪府立健康科学センターでは、大阪府下の勤労者および住民（30～79 歳）の循環器健診データを基に、2001～2004 年、2007～2007 年、2007～2009 年の 3 期間について糖尿病およびその予備群の有病率および糖尿病性網膜症合併率の推移を調べました。

糖尿病およびその予備群の有病率の推移を見ると、近年、増加傾向を示し、また、いずれの年代でも増加していることがわかりました（図 1・2）。

図 1 大阪職域・地域における糖尿病予備群・有病者の頻度の推移
—男—

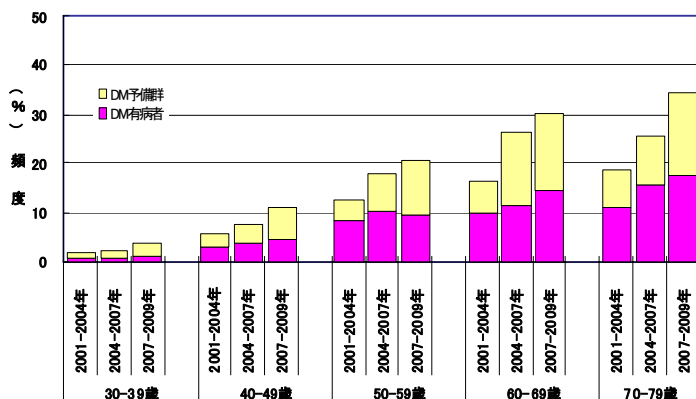
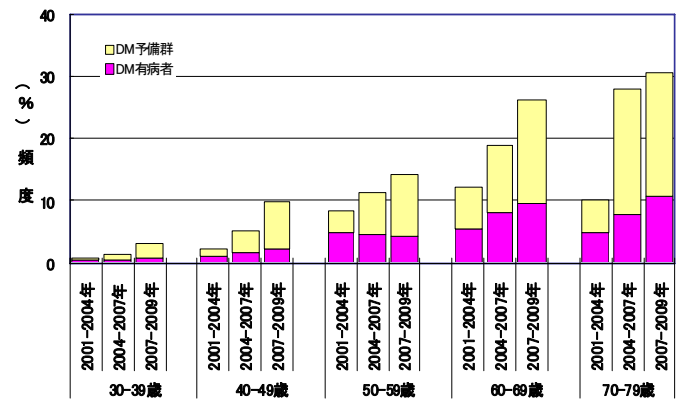


図 2 大阪職域・地域における糖尿病予備群・有病者の頻度の推移
—女—



また、糖尿病の有病者における糖尿病網膜症の合併率については、糖尿病歴が10年を超えると大きく上昇しました（図3）。

図3 糖尿病有病者における罹患期間区別糖尿病性網膜症の頻度（年齢調整） — 男 —

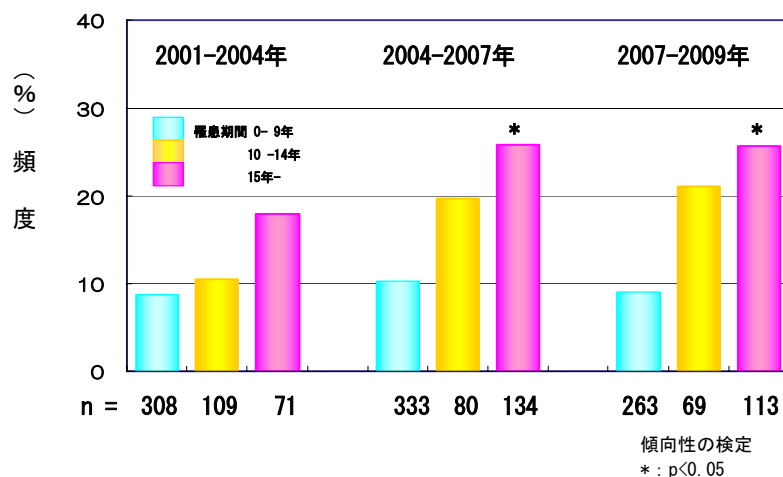


図1・2のデータから、近年、糖尿病の有病者が急増していることを考えると、現状で対策を講じなければ、今後、糖尿病網膜症の合併が増加することは必至です。

今回の結果をもとに、糖尿病性網膜症の有病者数を検討した結果、20歳以上の成人で、大阪府全体が約8万7000人、全国では約135万人の方が糖尿病性網膜症に罹患していると推計されました。

健康な人に対して糖尿病を発症させないように指導していくことは当然ですが、既に糖尿病を発症している人やその予備群に対して合併症を招かないよう糖尿病のコントロールを行っていく必要があると考えます。

大阪府立健康科学センターは、府民の生活環境や疾病の発生状況を調査・研究し、健康寿命の延伸のための科学技術開発に取り組んでいます。

◆大阪府立健康科学センター

■ 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 1-3-2

■◆ TEL:06-6973-3535 FAX:06-6973-3574

■■ (主任責任者) 永野 英子 (臨床検査班長)

■■◆ (研究責任者) 北村 明彦 (健康開発部長)

■■■◆ (情報提供担当) 高良 昇 (事務長)